

報道関係各位

2006年1月31日
アルプス システム インテグレーション株式会社

ALSI の情報漏えい防止ソリューション「DocumentSecurity」 ドキュメント不正アクセス時の緊急対応機能 ファイル外部持出しのログ追跡機能を強化 2006年2月1日にバージョンアップ版を発売開始

アルプス システム インテグレーション株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：大喜多 晃、以下 ALSI〔アルシー〕）は、企業内部からの情報流出を効果的に防ぐことが可能な情報漏えい防止ソリューション「DocumentSecurity(ドキュメントセキュリティ)」に新機能を追加してバージョンアップし、2006年2月1日より発売を開始いたします。

製品名：「DocumentSecurity v3.0J」

販売開始日：2006年2月1日

販売目標：DocumentSecurity シリーズ合計 初年度 10 億円

販売価格：50 クライアント 1,837,500 円～（税込）

販売対象：企業、官公庁、自治体 など

製品発売の背景：

2005年4月より施行された個人情報保護法を契機に、企業における情報セキュリティ対策やコンプライアンス、リスクマネジメントの重要性がより高まってきております。さらに2008年より、上場企業での会計不祥事を防止するための法律、日本版 SOX 法 (Sarbanes-Oxley Act) が導入される予定であり、今後企業では、IT 活用による「内部統制」を確立することが求められるようになって考えられます。このように、企業のリスクマネジメントの観点から、情報セキュリティ市場は今後さらに拡大することが予想され、企業内部からの情報流出などを未然に防ぐソリューションのニーズはますます高まっていくものと考えられます。

ALSI は、管理者が設定したポリシーに基づいて、企業内に散在するドキュメントのアクセス制御を一元管理し、内部からの情報流出を防止することが可能な情報漏えい防止ソリューション「DocumentSecurity」を2003年7月より発売しております。当製品は、機密情報が含まれる文書に対し、「閲覧」「編集」「印刷」「保存」などきめ細かなセキュリティレベルを文書ごと、利用者ごとに容易に設定することができ、外部への重要書類の流出を防ぐことができます。管理者や使用者の負担を最低限に抑えながら、企業のセキュリティポリシーに合わせた柔軟な設定ができることから、発売以来、大手金融機関や大手化学メーカー、市役所など、約 140,000 ライセンスの販売実績をもってしております(2006年1月現在)。

ALSI は今後の市場拡大と、この度のバージョンアップにより、初年度 10 億円の売上を見込み、企業、官公庁、自治体などを中心に導入の拡大を目指します。

強化する機能のポイント：

(1) 緊急対応機能

不正なアクセスやファイル移動が発生していることが確認された場合、ポリシー常時適用機能により対象クライアントに対する緊急措置を実施することが可能となります。また、異常トラフィックや異常操作が確認された場合、対象クライアントに対して通信ポートブロックやデバイス制御などを自動的に適応いたします。

(2) ログ追跡機能の強化

外部デバイスによる「ファイル持出し」と「ファイルの削除・破棄」について、ログの追跡機能を強化し、ファイルのライフサイクルを把握することが可能となります。機密文書の「持出し失敗」や「削除・破棄」等、特定のアクセス履歴から、セキュリティポリシーの浸透状況を確認でき、適切な対応を取ることができます。

(3) 「兼務者機能」の搭載

企業では、複数の部署や部門、プロジェクトなどを1人の社員が兼務する組織体制が一般的となり、部署ごとにドキュメントルールが設定されているケースも増えてきております。そこで、複数の部署にまたがって業務に携わるユーザを、「兼務者」として指定することにより、それぞれの部署のルールに応じたアクセス管理を可能にすることで、内部からの情報流出対策をより強固にすることが可能となります。

(4) カスタマイズ性の高い機能を管理コンソールに統合

管理コンソール上に、カスタマイズ性の高い設定機能群を追加・統合することにより、各機能の操作や設定を一元管理することができます。運用管理上のセキュリティを向上し、ユーザ情報の閲覧制限や文書作成時の指定カテゴリ制限などを、管理コンソール上で柔軟に設定することができます。

DocumentSecurity 機能概要：

(1) ドキュメントのアクセスコントロールを実現

閲覧・編集・保存など、ドキュメントの重要度に合わせた権限設定が可能です。また、閲覧権限や指定条件による自動破棄等の制限項目により、文書の「ライフサイクルマネジメント」も実現いたします。

(2) 外部メディアによる持出し制限

CD-RやUSBメモリ、フロッピーディスク等へのファイル保存を制限し、外部への持出しを防止します。

(3) 外部送信セキュリティ文書に変換

外部のユーザに提供するドキュメントを「外部送信セキュリティ文書」に変換し、閲覧や印刷回数、閲覧期限などの条件を付与できます。

(4) アプリケーション自動連動

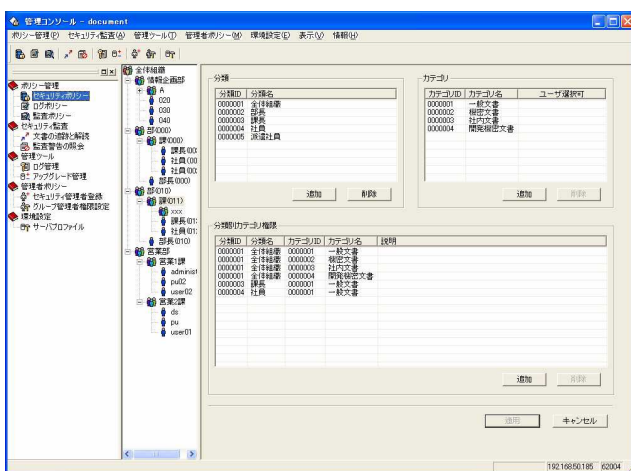
OfficeやAcrobatなどのアプリケーションと連携したシームレスな暗号化機能を提供いたします。連動アプリケーションのドキュメントを開き、保存/終了した時点で、自動/手動で暗号化をすることができます。

(5) ドキュメント追跡・管理

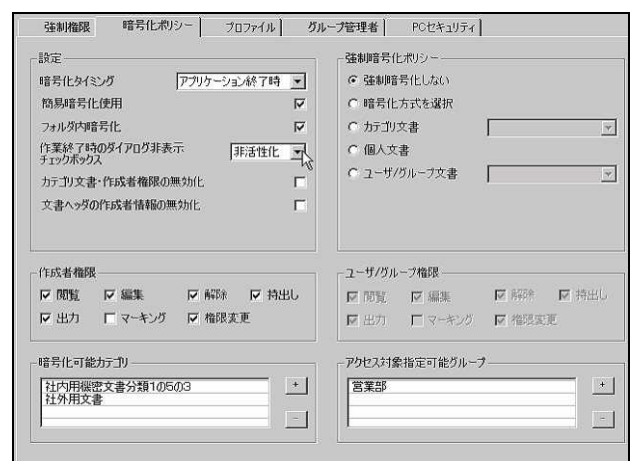
各ユーザのセキュリティ文書の閲覧や編集、持出し等の行為をすべてログとして保存します。管理者はユーザ名や文書名、行為等の条件で履歴追跡や監査が可能です。

(6) サービスリンカーによるシステム連携

企業に導入されているERPやグループウェア等の既存ファイル環境に、DocumentSecurityの暗号化機能を追加することができます。



管理コンソール画面



管理コンソール画面

開発元：SoftCamp Co.,Ltd.

記載されている会社名及び商品名は各社の商標もしくは登録商標です。

【このリリースに関するお問い合わせ・取材受付先】

アルプス システム インテグレーション株式会社 URL: <http://www.alsi.co.jp/>

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 1-7 TEL: (03)5499-8045 FAX: (03)3726-7050

パッケージソリューション部 マーケティンググループ 広報担当: 桑野 宏子 (kuwano@alsi.co.jp)